



# 大型開発優先の「攻めのまちづくり」より 貧困と格差の是正こそ 日本共産党市議団

# 核兵器禁止へ 市議会意見書採択！

今年6月の定例会で、市民団体からの要望を受けて共産党市議団が提出した核兵器禁止条約批准を求める意見書が賛成多数で採択されました。条約には現在33か国が批准(50か国で発効)、しかし日本政府は批准していません。意見書採択は大きな意義を持ちます。



写真は、国連で採択された時のものです（2017年7月）

## 高額な補聴器に補助を 求める意見書を提案

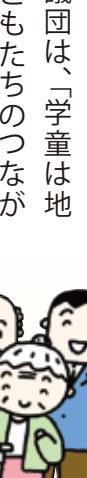
難聴の放置は、うつ病や認知症の原因ともなり、早期の補聴器使用が推奨されています。党市議団は、加齢による難聴者への補聴器購入の補助を求める  
章目書を提案



しかし、自民・公明などの反対で不採択となりました。

1

党市議団は、「学童は地域の子どもたちのつながりを強くし、障害児の成長に資する」として整備を主張。賛成多数で採択されました。



やった～！



不採択としました。

賛成多数で採択

自民党・  
市民クラブ  
が反対

## 学童保育所整備を求める請願

1

富士森林

競技場

投票の有料化反

対  
請  
願

都の産業交流拠点と一体に整備するとしてきた旭町・明神町の再開発も、市が方針を示せず、都が先行せざるを得ませんでした。市長の言う「攻めのまちづくり」が行きづまっていることを象徴しています。

市は、川口地区の物流拠点整備を目的とした区画整理事業に、支出の20%を交付するとしてきました。しかし、環境アセスメント調査で使った費用は、ほぼ全額（9億2千万円）を交付し、後押しをしました。また、アセスメント調査の事後報告書には、まだ始まつてない工事を完了したとする行程表を添付する、ずさんなものでした。工事はいまも全く進んでいません。

貧困と格差の弊害が子どもたちにまで広がるなか、市は富士森公園陸上競技場など使用料値上げを決め、さらに国民健康保険税の連続値上げを強行しました。その一方、八王子駅北口マルベリーブリッジの延伸を進め、川口地区物流拠点の整備では、条件に反した補助金交付を行うなど、開発を優先してきました。共産党市議団は2018年度決算に反対しました。

## 行きつまる「攻めのまちづくり」

市は、3歳から5歳の給食費を4500円、徴収することを決めました。これまで給食費は保育料にふくまれていましたが、別途徴収することになり、低所得者ほど軽減率が低くなります。また、0歳から2歳だけでなく、3歳以上の子についても、「保育の無償化」とはなりません。

共産党市議団は、保育料軽減のために市が投入してきた5・5億円を使って給食費も無償化するよう求め、徴収に反対しました。

また、23区中、20区が給食費の徴収は行いませんが、多摩地区では2市のみです。

共産党市議団は、都に多摩地区への財政援助を求め、市の見解を質しました。市から「市長会を通じて働きかける」と回答がありました。

日本共産党八王子市議団ニュース